

(科目コード : 2001120003EE)

【改訂】第26版(2014-03-26)

【科目】倫理

【科目分類】 一般科目 【選択・必修の別】 必修 【学期・単位数】 通年・2単位

【対象学科・専攻】 電子メディア 3年

【担当教員】 前期:西岡 伸二

後期:西岡 伸二

【授業目標】

アイデンティティ確立の契機とするとともに、現代社会の倫理的課題についての理解を深めることができる。
先哲が生涯をかけた思索を学ぶことにより、「生き方あり方」についての指針を持つことができる。
文化の二面性(個性性と普遍性)を理解することにより、日本人としての自覚と共にグローバルな視野と価値観を持つことができる。
人間は、ことばでものを考える。「倫理」は、ことばの宝庫なので、授業を通して、「ことばの豊かな人」になることができる。

【教育方針・授業概要】

- ・本科目の総授業時間数は45時間である。
- ・穴埋め式授業用プリントを貼付したノートを核とし、資料集等を活用しながら授業を進める。学生諸君には、メモ能力・質問能力を高めるとともに創意工夫したオリジナルノートの作成を期待する。
- ・心理学・倫理学・哲学・美学・宗教・文化人類学・社会学等、授業内容は多岐の領域にわたる。書籍・雑誌・新聞などの具体的資料や視聴覚資料を積極的に活用して難解に陥ることなく、学生諸君の知的好奇心発揚に努める。
- ・毎回の授業の中で、人生観・世界観・社会観の形成に資することばをできるだけ多く取り上げる。
- ・小論文指導を前期、後期1回ずつ行い、実際に授業の中で倫理、社会的なテーマに基づく小論文を作成する。
- ・読書の勧めとして随時、参考図書を紹介する。また長期休暇中を中心に読書感想文作成の課題を課す。

【教科書・教材・参考書等】

『テオリア 最新倫理資料集』: 第一学習社

その他、副教材としてプリントを適宜配付

【授業形式・視聴覚・機器等の活用】

視聴覚機材(DVD・CD等)を年間数回、授業の一部で活用する。

【成績評価方法】

[前期]中間試験:35%,期末試験:35%,レポート:0%,課題点(ノート、芸術批評文、小論文など):30%

[後期]中間試験:35%,期末試験:35%,レポート:0%,課題点(ノート、読書感想文、小論文など):30%

【本校の学習・教育目標】

(A-1) 人文社会系の科目の学習を通じて、人間文化と社会生活について理解する。

【授業計画】(倫理)

回数	授業の主題	内容	レポート	宿題
1回	イントロダクション ~ロゴスの力	・倫理学習の目的と内容 ・授業への取り組み方、準備 ・「私」とは?		
2回	芸術と人間	・オリジナルノートの作成 ・人生における芸術の意義	芸術批評文	
3回~7回	青年期の意義と課題(1)	・人間とは何か~善と悪 ・生命倫理 ・心理学入門 ・青年期の特色	小論文	
8回	中間試験			
9回~13回	青年期の意義と課題(2)	・欲求と行動 ・パーソナリティ理論 ・フロイトとユング		
14回~20回	思想の源流	・古代ギリシャ思想 ・神話から哲学へ ・自然哲学の系譜~タレス/ピタゴラス他 ・ソクラテス/プラトン/アリストテレス	読書感想文 ノート提出	宗教研究
21回~22回	文化人類学入門	・日本文化論、日本人論 ・異文化理解	小論文	
23回	中間試験			
24回~27回	近代思想	・経験論と合理論~ベーコン/デカルト ・自己実現と幸福~カント ・弁証法、法と道徳~ヘーゲル		
28回~30回	現代思想	・社会主義思想~マルクスを中心に ・実存主義思想~ニーチェ/サルトル	ノート提出	